

# 四街道市総合計画後期基本計画策定

市民会議

提言書

平成29年12月

# 目 次

## ■市民会議の位置づけ■

(1) 市民会議の目的	1
(2) 市民会議の進め方	2
(3) 参加者と検討体制	3
(4) 検討の経過	4

## ■市への提言■

テーマ1：若者が住みやすくなる・Uターンしたくなるまちづくり	6
テーマ2：子育てしやすい環境づくり	26
テーマ3：中高年世代が安心して暮らせる地域づくり	42

# ■市民会議の位置づけ■

## (1)市民会議の目的

- 平成31年度から平成35年度を計画期間とする「四街道市総合計画・後期基本計画」をより良いものにするため、策定段階から市民の皆様にご参加頂き、市民の皆様の視点から魅力あるまちづくりのためのアイデアや日常に感じている四街道への思いを計画に活かしていくことを目的としています。

## (2)市民会議の進め方

- 本市は、現在、人口増加を維持しておりますが、日本全体の人口減少に伴い、今後、本市でも将来的には人口減少に転じる可能性があります。そのため、市の活力を維持し、高めるには、人口減少を緩やかにし、人口構成の不均衡に対応する取組が喫緊の課題となっています。
- そこで、市民会議では、人口減少を緩やかにし、人口構成の不均衡に対応する取組として、以下の3つのテーマに分かれて、それぞれのテーマごとに議論をして頂き、取組に対する提言書を取りまとめて頂くこととしました。

テーマ1	若者が住みやすくなる・Uターンしたくなるまちづくりについて
テーマ2	子育てしやすい環境づくりについて
テーマ3	中高年世代が安心して暮らせる地域づくりについて

## (3)参加者と検討体制

### 参加者

- 市内在住・在勤の27名（4名欠席）の方が市民会議に参加しました。

年齢構成

⇒ 30歳代：6名、40歳代：10名、50歳代：2名、60歳以上：9名

### 検討体制

- 市民会議は、以下の3つのテーマごとにグループを構成し、会議を行いました。

テーマ	参加者	※敬称略
テーマ1	荻原好光、上飯坂洋、柏木真、神田雅美、駒井奈々、増田敬之、松坂洋晴	
テーマ2	荒井秀司、岩崎裕美、大江綾、神田美紀、木下ゆき 田島一靖、谷村和美、飛田周彬	
テーマ3	奥田弘幸、栗山治、小島孝昭、芝崎正和、末松ひろ子 東園子、吉田純、渡邊敦子	

## (4) 検討の経過

- 市民会議は、以下の日程で6回開催し、提言書を取りまとめました。

会 議	開催日	検討内容
第1回	10月18日（水） 18時30分～	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 会議の趣旨説明</li><li>・ 3つのテーマに分かれ、テーマごとにリーダー、司会、書記を選出</li><li>・ 各テーマに即した現状と問題点に関して意見交換</li><li>・ 市民インタビューの質問内容を検討</li></ul>
第2回	10月29日（日） 10時～	<ul style="list-style-type: none"><li>・ テーマごとに市民インタビューの実施（調査結果は、市民会議の提言書の参考資料として活用）</li><li>・ インタビュー終了後に各班で情報共有</li></ul>
第3回	11月15日（水） 18時30分～	<ul style="list-style-type: none"><li>・ テーマごとに課題の集約、課題を解決するための目標像、取組内容（市・市民・団体等）の検討</li></ul>
第4回	11月29日（水） 18時30分～	<ul style="list-style-type: none"><li>・ テーマごとに課題の集約、課題を解決するための目標像、取組内容（市・市民・団体等）、対応策の検討</li></ul>
第5回	12月5日（火） 18時30分～	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 提言書のとりまとめ</li></ul>
第6回	12月17日（日） 10時～	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市長に対し、提言書を提出（発表）</li></ul>

# 市への提言

## テーマ1

若者が住みやすくなる・Uターンしたくなるまちづくり



# (1)四街道市の良いところ・悪いところ

- 第1回市民会議で、現在の四街道市の生活環境について意見交換を行い、大きく以下の3つの状況認識を持ちました。

## **認識1:若者の居場所が少なく、その確保が必要**

- 四街道市の生活環境として、公園が多い、性風俗営業がない等が良い点と考えられます。
- 一方で、勉強する場、商業施設等が比較的少なく、若者の居場所の確保が必要と考えられます。

## **認識2:市内に就業場所が少なく、その確保が必要**

- 市内に就業場所（企業、店舗）が比較的少なく、若者が定住するためには、その確保が必要と考えられます。

## **認識3:自然環境、住環境が良く、スポーツや祭りが盛ん**

- 四街道市は、自然環境、住環境が良く、スポーツや祭りが盛んなことが、良い点と考えられます。

## (2) 市民インタビュー

- ・ 第2回市民会議で、市内の高校生9名にインタビューを行い、若者の暮らすまちとして、四街道市の住みやすいところ・住みにくいところ等の意見をお聞きしました。

### 問：四街道市への愛着

- ・ 四街道市が好き！という意見が多く、その理由としては、地域の交流が盛ん、落ち着く、安全・安心、バス路線が比較的充実している等の意見がある。

### 問：若者の暮らすまちとして住みやすいところ・住みにくいところ (住みやすいところ)

- ・ 交通の便が良い（通学・通勤も便利）という意見が多い。
- ・ 病院が充実している、災害が比較的少ない、治安が良い、自然が多い、地域での交流が多い等の意見がある。

### (住みにくいところ)

- ・ 未整備の道路や歩道の狭さ等に対する意見がある。
- ・ バスと鉄道の運行本数がやや少ない。
- ・ 若者が遊ぶ場所、商業施設がやや少ない。

### 問：住みやすくなる条件

- ・ 公共交通の利便性の向上、若者の遊び場（商業施設、公園など）や就業場所を増やすといった意見がある。

### 問：一旦転出した後、Uターンするための条件

- ・ 将来のライフステージを見据え、子育て環境や就業場所の充実等、生活環境全般に関する意見がある。

### (3)若者が住みやすくなるまちづくりの課題

- 第1回市民会議での意見交換と、市民インタビューの結果を踏まえ、四街道市における「若者が住みやすくなる・Uターンしたくなるまちづくり」の課題を以下の3つに絞りました。

**課題1:年代に応じた集まる場所、居場所をつくろう!**

**課題2:将来のライフステージを自ら見通すことができるまちをつくろう!**

**課題3:若者が愛着を持てる住環境をつくろう!**

	(第1回市民会議) 四街道市の状況認識	(市民インタビュー) 若者の意見		若者が住みやすくなる まちづくりの課題
1	認識1: 若者の居場所が少なく、 その確保が必要	住みにくいところ: 若者が遊ぶ場所、商業施設 が少ない	⇒	年代に応じた集まる場所、 居場所をつくろう!
2	認識2: 市内に就業場所が少なく、 その確保が必要	Uターンの条件: 次のライフステージを見据 え、子育て環境や就業場所、 生活環境を良くすることを 求めている	⇒	将来のライフステージを 自ら見通すことができる まちをつくろう!
3	認識3: 自然環境、住環境が良 く、スポーツや祭りが 盛ん	四街道市への愛着: 四街道市が好き!という意 見が多く、その理由として は、地域の交流が盛ん、落 ち着く、安全・安心、バス 路線が比較的充実している 等の意見がある。	⇒	若者が愛着を持てる住環 境をつくろう!

## (4)まちづくりの目標像

- 前記課題を解決するため、「若者が住みやすくなる・Uターンしたくなるまちづくり」の目標像を以下のように設定しました。

仕事も仲間も丸ごと活力あふれる四街道

## (5)課題解決に向けた対応策と取組内容

- 課題の解決と目標像の実現を目指すため、対応策と取組内容を市民会議として以下のとおり提言します。

### 課題1：年代に応じた集まる場所、居場所をつくろう！

- 課題1の解決に向けて、以下の6つの対応策を提言します。

#### 対応策1

- 公共施設等を活用し、若者の居場所を提供し、PRする

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 「わろうべの里」等の市内公共施設等において、若者の利用促進を図る。
- 市ホームページやSNS等の多様な情報媒体での情報発信を行う。

##### ●市民の役割

- 若者の居場所について、SNS等を活用して広くPRする。

##### ●団体等の役割

- 各団体は若者が利用できる公共施設等について、SNS等の多様な情報媒体でPRをする。

## 対応策2

- いざというときのための防災、救急等への対策を強化し適正化を図る

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 防災行政無線放送の難聴地域に対しては、隣接市と連携して相互に補完し合う。
- 救急車の適正利用がされるよう、市民に啓発する。また、条例を作り、一部有料化を図ることを検討する。

## 対応策3

- 生涯学習、団体活動を充実し、交流の場を提供する

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 生涯学習における若者向けのカリキュラムを充実させる。
- 若者や学生のニーズを把握し、居場所の確保に努める。
- 若者の行動範囲となる近隣市の図書館・文化施設等について、市町村の枠を超えた相互利用の推進を図る。

#### ●市民の役割

- 若者向けの学習講座について、SNS等を活用してPRする。
- 若者が望む市内の居場所について市等に要望を伝える。

#### ●団体等の役割

- 市民活動団体等が、自治会館や集会所を利用し、若者向けの寺子屋のような活動を行う。
- 団体等（事業所、市民活動団体等）が、若者（各年齢層①小中学生、②高校生、③大学生）向けのイベントを実施する。

## 対応策4

- 若者の利用ニーズにあわせて公園を整備し、PRしていく

### ■取組内容

#### ●市の役割

- ボール遊び等ができるスペースを各地区の公園に設ける。また、空き地の利活用を検討する。

#### ●市民の役割

- ニーズに合わせた公園等の利用について、SNS等を活用してPRする。



## 対応策5

- フェス等を誘致し、若者向けの店舗を確保するなど、イベントを盛り上げる

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 若者と商業施設等とのコラボイベントを企画・開催する。
- 空き店舗等のフリースペースを活用した若者向け店舗の誘致を図る。
- 商業施設等の誘致の推進を図る。

#### ●市民の役割

- 若者向けフリースペース等について、SNS等を活用して友達等にPRする。
- 四街道を楽しむ。
- 市内商業施設等を利用する。

#### ●団体等の役割

- 若者と商業施設等とのコラボイベントを企画・開催する。
- 若者向けフリースペース等を確保する。

## 対応策6

- 若者向けの情報発信やアイデアを取り入れる体制づくり等を進める

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 若者向けタウン情報誌を企画、発行する。
- 若者のアイデアを取り入れる体制をつくる。

#### ●市民の役割

- 若者は、自主性を持ちながら生活し、積極的にまちづくりに参画する。

#### ●団体等の役割

- 若者向けタウン情報誌を市と協力して企画、発行する。

## 課題2: 将来のライフステージを自ら見通すことができるまちをつくらう!

- 課題2の解決に向けて、以下の5つの対応策を提言します。

### 対応策1

- 親（社会人）となることへの自覚を促す社会（成人）教育を進める

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 親（社会人）としての自覚を促す社会（成人）教育を進める。

##### ●市民の役割

- 若者同士が意見交換する。経験者から学べるような機会・イベントの企画に参加する。
- 子育て世代と若者が関われるイベントを企画・開催する。

### 対応策2

- いざというときに活動できるために、若者の防災意識を高める

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- イベント等で消防車（はしご車等）の試乗を実施する。

##### ●市民の役割

- 若者が関われる防災活動に実施する。

### 対応策3

- 学校教育や職場体験等を通して、ライフステージ毎のまちでの生活スタイルを考える

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 「ライフステージ毎のまちでの生活スタイル」をPRする。
- 市内の学校予算を充実させる。
- 職場体験などを通じた学習の場を充実させる。
- 様々な業種の方（退職者含む）を教育現場で活用する。

##### ●市民の役割

- 職場体験などのイベントに参加する。
- 定住者が市の魅力やライフステージ毎のまちでの生活についてPRする。
- これまでの経験等の知識を教育現場で生かす。

## 対応策4

- 市の良さをPRし、若者のニーズを把握しながら、住みやすい住環境を整える

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 市の住みやすさ、住みにくさに関するアンケートを実施する。
- 豊かな自然環境や住環境等の住みやすさをPRする。
- 踏切の高架化を図る。

#### ●市民の役割

- 市の住みやすさ、住みにくさに関する市からのアンケートに協力する。

#### ●団体等の役割

- 関係団体において豊かな自然環境や住環境等の住みやすさをPRする。

## 対応策5

- 若者の定住やUターンのきっかけとなるイベントやコミュニティを充実させる

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 「成人式」「同窓会」「婚活」等若者の定住やUターンを促進するイベントを充実させる。

#### ●市民の役割

- イベント参加時の同級生や友達への声掛けを行う。
- 若者も含めた、多世代の地域コミュニティの充実を図る。

#### ●団体等の役割

- 「成人式」「同窓会」「婚活」等若者の定住やUターンを促進するイベントを充実させる。

## 課題3:若者が愛着をもてる住環境をつくろう!

- 課題3の解決に向けて、以下の6つの対応策を提言します。

### 対応策1

- 地域への愛着を育むための祭りやイベントを充実させる

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 各地域での祭りやイベントの開催を支援する。
- 市外に向けて広く祭りやイベントをPRする。
- 市民歌づくりを主導する。

##### ●市民の役割

- 各地域での祭りやイベントを企画し、参加する。

##### ●団体等の役割

- 各地域での祭りやイベントを企画する。
- ○○フェス開催の誘致を図る。

## 対応策2

- 若者が愛着をもてる安全・安心な地域づくりを進める

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 防災行政無線放送を完全聴取可能にする。

#### ●市民の役割

- 近所の見回り、状況把握を常時行い、災害・事故を未然に防止するための積極的な意識を自らが持つ。
- 防災訓練など積極的に参加し、SNSで発信する。
- 社会生活の中での安全と危険な事象の弁別能力を身につける。



### 対応策3

- ・ 四街道の歴史文化をPRすることで、愛着と交流を育む

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- ・ 市内小中高等学校の児童生徒に対し、歴史文化や特徴をPRする。
- ・ 若者へ歴史散策等の活動を促す等のPRをする。
- ・ 教員に充実した研修の機会を与える。

##### ●市民の役割

- ・ 祭りやイベントに積極的に参加する。
- ・ 四街道市の歴史講座に参加する。

### 対応策4

- ・ 豊かな自然環境をPRし、愛着の持てる良好な住環境を形成する

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- ・ 住宅リフォームや省エネルギー設備等への補助を行い、良好な住環境を推進する。

##### ●市民の役割

- ・ まちの自然環境に興味をもつ。

##### ●団体等の役割

- ・ 豊かな自然環境（植物、動物等）のPR、自然に触れる機会をつくる。

## 対応策5

- 特色あるまちなみを整備し、タウン情報の発信やイベントを開催し、市への愛着を育む

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 「ガス灯のまちなみ」等個性あるまちづくりを推進する。
- 商工会が発行するタウン情報誌の支援をする。
- 農業を活かした市民イベントの開催を支援する。
- 耕作放棄地や遊休農地を積極的に活用していく。

#### ●市民の役割

- まちの店舗を利用する。
- 市民イベントに参加する。

#### ●団体等の役割

- 商工会によるタウン情報誌を発行、PRする。
- 農協や農家による農業を活かした市民イベントを開催する。

## 対応策6

- 市や市民活動団体等による子ども・若者向けの活動を拡大する

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 市に関連する著名人の招聘によるイベントを開催する。
- 市民活動団体の子供・若者向けの活動に対して支援を行う。

#### ●市民の役割

- 市民公募に積極的に参加する。
- 市民活動団体等のイベントに参加する。

#### ●団体等の役割

- 「みんなで地域づくりセンター」等による、子供・若者向けの活動の拡大を図る。

## テーマ2 子育てしやすい環境づくり

# (1) 四街道市の子育て環境について

- 第1回市民会議で、現在の四街道市の子育て環境について意見交換を行い、大きく以下の3つの状況認識を持ちました。

## **認識1: 福祉分野だけではなく、市全体での子育て環境づくりが必要**

- 自然が豊かで子育て環境に適していると考えられます。
- 一方で、道路や公園が利用しにくい、防犯面が不安、学校の余裕教室等の非効率、地域の歴史文化を子供に伝える施設がない等の問題があり、市全体での子育て環境づくりが必要と考えられます。

## **認識2: 子ども医療費助成は良いが、より幅広い子育て支援が必要**

- 子ども医療費助成は良い点と考えられます。
- 一方で、多子世帯への支援や、子供の貧困対策の推進等、乳幼児・児童へのより幅広い子育て支援が必要と考えられます。

## **認識3: 地域で見守る市民活動をいかに継続させるか検討が必要**

- 見守りボランティアの負担、保護者の忙しさ等の指摘があり、子育て支援に関する市民活動をどのように維持、拡充していくか検討が必要と考えられます。

## (2) 市民インタビュー

- ・ 第2回市民会議で、子育て世代の保護者7名にインタビューを行い、子育てするまちとして、四街道市の住みやすいところ・住みにくいところ、子育てしやすいまちになるための条件等をお聞きしました。

### 問: 子育てするまちとして住みやすいところ・住みにくいところ

#### (住みやすいところ)

- ・ 子ども医療費の自己負担が無料であるという意見がありました。
- ・ 保育所や児童センター（福祉センター内）等の公共施設も良いと捉える方が多い。

#### (住みにくいところ)

- ・ 通学路の歩道が狭い、公園が利用しにくい、小児病院が少ない、空き巣や不審者が多い等の子育て環境への不満が多い。

### 問: 定住意向

- ・ 「ずっと住み続けたい」と回答された方がほとんどで定住意向が高い。

### 問: 子育てしやすいまちになるための条件

- ・ 子供が遊びやすい公園がほしいとの意見が多い。
- ・ 買い物、遊び場に選択肢がほしい、鉄道駅へのアクセス利便を高める等のまちづくり全般に対する意見も多い。
- ・ 加えて、「有名になる公園」「シンボリックな施設」等、子育てのシンボルをつくるという意見がある。

### (3)「子育てしやすい環境づくり」の課題

- 第1回市民会議での意見交換と、市民インタビューの結果を踏まえ、四街道市における「子育てしやすい環境づくり」の課題を以下の3つに絞りました。

**課題1:みんなで子育てしやすいまちづくり**

**課題2:地域・家庭・学校が一体となった子育て環境づくり**

**課題3:シンボルとなる取組「四街道子育て3箇条」でPR**

	(第1回市民会議) 四街道市の状況認識	(市民インタビュー) 子育て世代の意見		子育てしやすい 環境づくりの課題
1	認識1： 福祉分野だけではなく、市全体での子育て環境づくりが必要	住みにくいところ： 通学路の歩道の狭さ、公園の利用しにくさ、空き巣や不審者の多さ等子育て環境への不満が多い	⇒	みんなで子育てしやすいまちづくり
2	認識2： 子ども医療費助成は良いが、幅広い子育て支援が必要 認識3： 地域で見守る市民活動をいかに継続させるかの検討が必要	—	⇒	地域・家庭・学校が一体となった子育て環境づくり
3	—	子育てしやすいまちの条件： 「有名になる公園」「シンボリックな施設」等、子育てのシンボルをつくる	⇒	シンボルとなる取組「四街道子育て3箇条」でPR

## (4)まちづくりの目標像

- 前記課題を解決するため、「子育てしやすい環境づくり」の目標像を以下のように設定しました。

みんなで子育て！

～子どもからお年寄りまで、育ち、育てる四街道～



## (5) 課題解決に向けた対応策と取組内容

- 課題の解決と目標像の実現を目指すため、対応策と取組内容を市民会議として以下のとおり提言します。

### 課題1: みんなで子育てしやすいまちづくり

- 課題1の解決に向けて、以下の5つの対応策を提言します。

#### 対応策1

- 市民の健康に配慮したまちづくりを進める

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 親子で元気に子育てを行うための子育て健康プログラムを作成する。
- 通学や通勤に自転車を利用しやすいまちづくりを推進する。
- 安全に自転車に乗れるロードマップを作成する。

##### ●市民の役割

- 高齢者の健康づくりの知見を活かした地域での子育てを進める。

##### ●団体等の役割

- サイクリングを推奨するために、景品提供等を行い、市内スタンプラリーのイベントを開催する。

## 対応策2

- 子供の安全・安心を守る取組を支援し、拡大する

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 児童生徒の通学時の安全見守り等を行う地域ボランティアに対する活動支援を行う。
- 警察等の防犯活動の強化を要請するとともに、連絡体制を強化する。
- 災害時に避難場所で利用できる井戸の把握等、災害時の井戸の活用を検討する。
- 自転車通学路の安全性を確保する。
- 防犯灯等設置に協賛金を募る。

#### ●市民の役割

- 地域の危険個所や危険情報を把握し、市に伝える。
- 防災イベントに参加する。

#### ●団体等の役割

- 市民の通学時の安全見守り等に対する活動拡大に努める。
- 地域の危険個所や危険情報を把握し、マップを作成し、市民に周知する。

## 対応策3

- 歴史資源を活かした子育てを推進し、郷土愛を育む

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 公共施設を活用し、子供のための郷土歴史館をつくる。
- 市民団体等と連携し、歴史資料を作成する。
- 「放課後子ども教室」の活動を支援する。

#### ●市民の役割

- 地域住民と地域の子供とのコミュニケーションを図る。
- 地域の歴史を学び、教え合う。
- 市内を散策し、市のことを知る。

#### ●団体等の役割

- 企業も地域の歴史や地勢等の資料作りにボランティアで協賛する。
- 地域で集まる場所を企業が提供する。

## 対応策4

- ・ 農地や森林等の自然を活かした子育てを推進する

### ■取組内容

#### ●市の役割

- ・ 四街道市の豊かな自然を、職業体験等に活用する。
- ・ 四街道市のおいしい水をPRする。
- ・ 地域の地域資源（民地）の存続の取組を進める。
- ・ 地産地消を推進し、子供の郷土愛を育む。
- ・ 豊かな自然・農業を活かし、市外の校外学習等を積極的に招き入れる活動を進め、子育てで有名なまちにする。

#### ●市民の役割

- ・ 豊かな自然を守る（「地域に桜の木が何本ある」等自然に興味をもつ）
- ・ 中学生・高校生に対する農林業等の伝承の機会を確保する。
- ・ 動植物を観察することで、市への愛着を育む。
- ・ 農家は、自営の野菜を市内で売り、市民は買う。
- ・ 貸し農園や遊休農地を借りて親子で農作物をつくる。中高年者のノウハウを活用する。

#### ●団体等の役割

- ・ 新しい取組として「四街道マイスター」等地域のコンシェルジュを推進する。
- ・ 四街道市の豊かな自然をPRする。
- ・ NPO等が、市外の校外学習等の誘致に協力する。

## 対応策5

- 事業所や店舗においても子育てに協力する取組を進める

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 授乳やおむつ替えができる公共施設や民間施設の認定を推進する。  
(事例：千葉市「赤ちゃんの駅」、板橋区「赤ちゃんステーション」)
- 子育てに協力する市内の事業所や店舗を支援する。

#### ●団体等の役割

- 事業所や店舗に託児所等を確保する取組を進める。
- 事業所は、子育て世帯に休暇を与える取組を進める。
- 子育てイベントに協賛金等を提供する。

## 課題2：地域・家庭・学校が一体となった子育て環境づくり

- 課題2の解決に向けて、以下の5つの対応策を提言します。

### 対応策1

- いじめ、不登校のない学校づくり、支援が必要な子供のケアを進める

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- いじめ、不登校、子供の貧困（子供食堂）、学習のケア（寺子屋）等、特別の部署だけではなく、市全体で地域住民や保護者と検討する。

##### ●市民の役割

- いじめ、不登校のない学校づくりに向け、地域住民や保護者が協力する。

### 対応策2

- 学校の安全対策を充実する

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 学校の安全対策として、校内にカメラの設置を検討する。
- 子供の防犯・安全対策に関する金銭的支援を検討する。

### 対応策3

- 学校施設の統廃合・有効活用を推進するとともに、学校教育へ市民や団体の参画を進める

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 小中学校の統合（旭中学校区3小学校の統合、千代田中学校区の完全小中一貫校）を進める。
- 学校の余裕教室を市史等の収蔵室等に活用する。
- 学校の余裕教室、特別教室等を活用し、自立支援のための料理教室（定期的に家庭科室で基本的な食事づくり等）を進める。
- 地域活動と連携し、開かれた学校づくりを進める。

##### ●市民の役割

- 小中学校の教育体制を高めるために、市民が参画する。
- 高齢者の知恵を活かし、学校現場で子育てを行う。

##### ●団体等の役割

- 「寺子屋」のような子供の学習支援、体験学習の場を推進する。

## 対応策4

- 市の歴史文化を継承する機能を確保し継承活動に努める。

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 歴史・文化を継承するため、公共施設を活用し推進する。

#### ●市民の役割

- 自慢できる郷土をつくる。
- 市民学芸員（ボランティア）を活用し、歴史文化を継承する。



## 対応策5

- 市・学校・P T A・地域の連携強化を図る

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 市・学校・P T A・地域において、コミュニケーションのシステムをつくり、連携を強化する。
- 地域コーディネーターを各学校に配置する。
- 地域コーディネーターの役割をP Rする。
- 子育て支援や学校活動に高齢者を活用する。
- ボランティア活動の全体を把握し、地域差の解消に努める。また、ボランティア活動の技能向上を支援する。

#### ●市民・団体等の役割

- 市・学校・P T A・地域において、コミュニケーションのシステムをつくり、連携を強化する。
- 地域コーディネーターの役割、P T A・地域との関係等を確認する。
- 地域コーディネーターでネットワークをもち、役割を活かせるような情報共有を進める。
- 高齢者等の部活動指導者等への参加を進める。
- リタイヤした方を活用した子育て支援ビジネスを育成する。

## 課題3:シンボルとなる取組「四街道子育て3箇条」でPR

- 課題3の解決に向けて、以下の3つの対応策を提言します。

### 対応策1

- 子育てに重点を置く年齢層を「乳児」「幼児」「児童」とし、対象ごとの取組を別々のプランとして取りまとめる

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 子育てに重点を置く年齢層を児童福祉法に基づく「乳児」「幼児」「児童」に分けて、対象ごとの取組を別々のプランとして作成する。
  - 「乳児」...生後1年未満の者。
  - 「幼児」...満1歳から小学校入学前の未就学児。
  - 「児童」...18歳未満。

## 対応策2

- 子育てに関し、市、市民、市民団体、大学等との連携を図る

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 子育てに対する取組は、市、市民、市民団体、大学等多様な主体が行っているが、その取組の全てが見えにくい。そのため、子育てに関する活動内容等の情報を共有し、体制を整える。

## 対応策3

- 子育てに関する多様な組織が作成した資料やマップ等を一覧表に集約し、有効活用を進める

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 子育てに関する様々な資料は、有効活用されていないケースが多い可能性がある。そのため、昔の資料や、市民、市民団体、大学等が制作した資料を一覧表にわかりやすく集約し、子育てに役立てる。

## テーマ3

# 中高年世代が安心して暮らせる地域づくり

# (1) 四街道市の良いところ・悪いところ

- 第1回市民会議で、現在の四街道市の中高年世代が安心して暮らせる地域について議論を進め、以下のような状況認識を持ちました。

## 認識1: 高齢者の活躍の場、多世代交流の場づくりが必要

- 自治会等で多世代交流が出来ていない（若い世代は忙しく、中高年世代のみの会議に入りにくい）という意見がありました。
- 一方で、活躍している高齢者も多いという意見もあり、「高齢者の活躍の場、多世代交流の場づくり」が必要と考えられます。

## 認識2: 公共交通の機能強化が必要

- バスの本数やバス停までの距離等が不便という意見があり、公共交通の機能強化が必要と考えられます。

## 認識3: 市域がコンパクトなことや同世代が近くに住むメリットを活用

- 市域がコンパクトであることや、比較的、同世代が近くに住んでいるというメリットを活かした支え合いの地域づくりが可能と考えられます。

## (2)市民インタビュー

- ・ 第2回市民会議で、中高年世代の方10名にインタビューを行い、中高年が安心して暮らすうえで、四街道市の住みやすいところ・住みにくいところや、中高年が安心して暮らすための条件等をお聞きしました。

### 問:中高年が安心して暮らすうえで住みやすいところ・住みにくいところ

#### (住みやすいところ)

- ・ 自然環境、子育て環境や商業、公共施設が良いとの意見が多い。

#### (住みにくいところ)

- ・ 車がないと動きにくく、バスが使いにくいという意見が多い。
- ・ まちの劣化や活気のなさ、ヤード問題を指摘する意見がある。
- ・ 新しい人との関わりのなさ、サロンのように集まれる場所のなさを指摘する意見がある。

### 問:なくなったら困るもの

- ・ なくなったら困るものとして、公共交通への意見が多い。

### 問:中高年が安心して暮らすための条件

- ・ 高齢者対応のまちづくりや健康的に生きられる(引きこもらない)仕掛けづくりの必要性について意見がある。
- ・ 地域コミュニティを良くすることや憩いの場を確保する等の意見がある。
- ・ 店や病院、公共交通の充実、治安・防災への対策等多様な意見がある。
- ・ 子供との同居を考え、子育て環境や教育環境等を良くするという意見がある。

# (3) 目標像実現に向けたまちづくりの課題

- 第1回市民会議での意見交換と、市民インタビューの結果を踏まえ、四街道市における「中高年世代が安心して暮らせる地域づくり」の課題を以下の3つに絞りました。

**課題1: 地域社会の弱体化の解消**

**課題2: サービス(公共交通)とニーズとのギャップ解消**

**課題3: 孤立させない(いざという時に戻れる)まちづくり**

	(第1回市民会議) 四街道市の状況認識	(市民インタビュー) 中高年世代の意見		安心して暮らせる 地域づくりの課題
1	認識1： 高齢者の活躍の場、 多世代交流の場づくりが必要	安心して暮らすための条件： 地域コミュニティ活性化と交流の 場・機会、運動の場・機会の確保 が求められる。	⇒	地域社会の弱体化 の解消
2	認識2： 公共交通の機能強化 が必要	なくなったら困るもの： 公共交通への意見が多く、その存 続が求められている。	⇒	サービス(公共交 通)とニーズとの ギャップ解消
3	認識3： 市域がコンパクトな ことや同世代が近く に住むメリットを活 用	安心して暮らすための条件： 子どもとの同居を考え、子育て環 境や教育環境等を良くするという 意見がある。	⇒	孤立させない(い ざという時に戻れ る)まちづくり

## (4)まちづくりの目標像

- 前記課題を解決するため、「中高年世代が安心して暮らせる地域づくり」の目標像を以下のように設定しました。

お互いに暮らしを支え合い、  
誰とでも笑顔であいさつし合うまち



## (5)課題解決に向けた対応策と取組内容

- 課題の解決と目標像の実現を目指すため、対応策と取組内容を市民会議として以下のとおり提言します。

### 課題1：地域社会の弱体化の解消

- 課題1の解決に向けて、以下の8つの対応策を提言します。

#### 対応策1

- 多世代交流の窓口や交流の場を市民とともに作り出す

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 交流の場のばらつきをなくし、市民が交流する場を認知できるよう周知する。
- 子育て支援のように、高齢者用の生活支援窓口を設置する。
- オープンスタイルのような市民の目につきやすい交流の場を確保する。  
(例：ABCクッキングのような)

##### ●市民の役割

- 多世代交流の場の存在を周囲へ紹介し、広めていく。

## 対応策2

- ・ 分野を超えた団体やサークルの連携を高め活動の輪を広げる

### ■取組内容

#### ●市の役割

- ・ 団体活動の拡充に努める。
- ・ 団体やサークル間の相互連携を高めるための窓口（コンシェルジュ機能）を設置する。

#### ●市民の役割

- ・ 中高年世代のサークル間の繋がり（リーダー同士の繋がり）をとるようにする。

#### ●団体等の役割

- ・ 社会福祉協議会等で、福祉団体間の繋がり、入りやすさを向上させる。あわせてリーダー同士の繋がりも確保する。
- ・ 円滑に団体活動を行うために、リーダー同士のコミュニケーションを向上させる。

## 対応策3

- ・ 多世代参加のイベントを実施し、多世代コミュニティの機会をつくる

### ■取組内容

#### ●市の役割

- ・ 市民文化祭を、より市民が参加し、楽しめるイベントに改良する。
- ・ 子どもが参加できるイベントを増やすなど、参加団体がさらに増える取組を行う。

## 対応策4

- ・ 団体・サークルの活動や生涯学習講座の情報を集約化し、PRする

### ■取組内容

#### ●市の役割

- ・ サークル・団体の情報の集約化し、市民に周知する。
- ・ ポータルサイトを用意し、手軽に情報を入手できる仕組みをつくる。
- ・ ポータルサイトの運用にPDCAサイクルを組み入れ、市民の意見を取り入れながら、市民が利用しやすいよう見直しを図っていく。
- ・ 「市政だより」等で団体・サークルの活動や生涯学習講座などの情報を提供する。（見過ごす人を減らす）
- ・ 活動団体等の情報の体系化し、窓口の一元化を図る。（専用窓口の設置）
- ・ 市からの情報提供は、メンバーを名宛人にするのではなく、リーダーを名宛人にする。
- ・ サークルの市民文化祭をつくる。  
（例えば、音楽・スポーツなど各団体の色付けをしていく）

#### ●市民の役割

- ・ 「まなびい」を積極的に閲覧する。

#### ●団体等の役割

- ・ 積極的に情報を発信する。
- ・ 公民館を窓口としたサークル間の連携を強化する。

## 対応策5

- 学校施設等の公共施設を有効活用し、交流の場を確保する

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 小学校の解放（夜・休日）、空き教室を活用し、サロンや子供会等で利用できるように推進する。
- 市の公共施設名をナンバリングしわかりやすくする。また、市のWeb予約システムの対象施設かどうかの表示をする。

#### ●市民の役割

- 小学校の施設解放時、ママさんバレーや子供会、サロンなどが利用できるようにする。

#### ●団体等の役割

- 小中学校の施設解放を広く周知するため、他の活動団体等に対しても啓発し、学校を使用する機会を増やす。

## 対応策6

- 市民ニーズに応じた公園施設の改良と周知に努める

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 軽い運動ができる場所としっかり運動できる場所を使い分けられるような市民ニーズに応じた公園施設の改良と周知に努める。

## 対応策7

- まちなかにコミュニティ活動の場をつくる

### ■取組内容

#### ●市の役割

- いつも行く場所をコミュニティ活動の中心の場所、もしくは窓口とする。

#### ●団体等の役割

- みんなで地域づくりセンターの窓口を、病院やスーパー等の人の集まる場所に設置する。

## 対応策8

- 地域コミュニティの情報提供や支援の窓口を一本化し、体系的な情報を提供する

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 地域コミュニティを束ねる機関（入口）の一本化を進める。
- 地域コミュニティ関連の情報をWeb上で簡単に検索できるようにする。
- 検診の際に、市内のボランティア団体（エクササイズ系）の活動を紹介する。
- 自治組織の役割を強化する。
- 自治会館の稼働率で助成金を変動させる。

#### ●市民の役割

- 市の提供する情報にアクセスしようとする意識をもってもらう。

#### ●団体等の役割

- みんなで地域づくりセンターの権能強化を図る。
- 団体活動の周知、みえる化をする。
- ボランティア団体の勧誘イベントを行う。

## 課題2:サービス(公共交通)とニーズとのギャップ解消

- 課題2の解決に向けて、以下の4つの対応策を提言します。

### 対応策1

- 福祉タクシーや「にこにこサービス」等の福祉サービスを周知し活用する

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 福祉（介護）タクシーの利用を促進する。
- ボランティア移送サービスの周知を行い、活用を促進する。
- 免許を返却した高齢者の足を確保する。

##### ●市民の役割

- ボランティア移送サービスへの理解を深め、積極的に利用・参加する。

##### ●団体等の役割

- にこにこサービスの利用を促進する。

## 対応策2

- 四街道駅に関わらず、公共施設へのアクセス利便性を確保する

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 市民が利用する公共施設のアクセス利便性を確保する。  
例えば、以下のような体系化を検討する。（サイクル&バスライド）  
市役所と総合公園等の利用の多い公共施設間に路線バスを確保する。  
市役所には駐輪場を確保し、自転車利用を促す。  
総合公園までの路線バスにおいて、特例的に市の補助で安く利用できるようにし、利用者の増加を図る。
- 総合公園の駐車場を拡張する。



## 対応策3

- 公共交通や各種送迎サービスに関する情報提供を強化する

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 路線バスや「ヨッピー」の運行ダイヤやルート、運行状況の情報提供を強化する。
- 送迎サービスを行う大規模店舗等の誘致に努め、これにより輸送手段の拡充を図る。
- ヨッピーは路線バスが行き届かない地区（住民が少ない地域）をカバーしているが、利用促進を図りながら、他の収入確保等の取組で存続を図る。
- 高速バスの路線拡充に取り組む。
- 幅員が狭く、公共交通の運行に支障がある道路に関しては、道路の拡幅を検討する。

#### ●市民の役割

- 路線バスがある程度便利な地域では、路線バスをできるだけ利用する。

#### ●団体等の役割

- 個々の企業・店舗の送迎サービスをPRし、利用を促進する。

## 対応策4

- ニーズを意識し、市内の公共交通を体系化する

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 駅中心（通勤・通学重視）のバス路線に、公共施設へのアクセス改善の交通を盛り込み、公共交通を体系化する。
  - ：通勤・通学→路線バス
  - ：病院・買い物・他→病院と地域を結ぶもの（厚労省補助金活用等）
  - ：末端はデマンドかタクシーで
- バスの乗客の目的（通院、高齢者の外出、買い物など）や需要量にあわせて、本数等の拡張を行う。
- バスと鉄道における朝、夜の運行時間の拡大に努める。京都の京丹後市で利用されているu-b e r等の新たな公共交通サービスについて研究し、導入を検討する。

#### ●市民の役割

- 高齢者の移動手段として、バスを利用する。

## 課題3: 孤立させない(いざという時に戻れる)まちづくり

- 課題3の解決に向けて、以下の4つの対応策を提言します。

### 対応策1

- 気軽に過ごせる居場所づくりを行い、情報提供する

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 介護などで家を空けられない、身体が不自由等の生活弱者も集まれる、ずっといられる場所づくりを進める。
- 市ホームページの使い勝手を向上させる（目的別に居場所が分かる仕組みを用意）
- 市民参加条例に基づく市民提案制度を活性化させる。

##### ●市民の役割

- 9万人単位の小さな市で何が可能かを考え、市に提言する。
- 地縁を大切にする。

## 対応策2

- 同居支援制度や同居することのメリットを親世代や子ども世代にPRする

### ■取組内容

#### ●市の役割

- 40歳代は、「親を呼ぶ」か「親元へ移るか」検討する時期なので、市外から地元へ戻る支援を行う。（決め手づくり）
- 「三世代同居・近居住宅支援事業補助金制度」を具体的に知る人が少ないので、より一層の周知を図る。
- 同居支援で子ども世代に対するメリットを強調する。
- 近居に対してもメリットを与える。

#### ●市民の役割

- 団地内・団地間のネットワーク（つきあいの輪）を維持していく。
- 自分の子世代に同居／近居支援があることをPRする。
- 四街道での子供時代にいい思い出があり、中高年になってから戻るケースも多いことを、若者世代に知ってもらおう。

#### ●団体等の役割

- 団地住民間の支え合い活動を活性化させる。
- 団地の特性（交流が希薄・活発など）や、高年齢住民の増加を踏まえた地域活動内容を検討し、実施する。

### 対応策3

- 農地の継承の取組を進める

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 農地の環境保全、農地活用の施策を検討する。
- 違法転用を厳しく取り締まる。
- 認定農業者の長期の営業動向を市が把握できる環境を整備する。

##### ●団体等の役割

- 親と同居・近居を検討する次世代で、農地を引き継がない場合を想定した農地の環境保全、農地活用について検討する。

### 対応策4

- 「四街道みんな地域づくりセンター」の活動内容を周知し活用する

#### ■取組内容

##### ●市の役割

- 市民協働の窓口である「四街道みんな地域づくりセンター」の活動内容を「見える化」し、「ガラス張り」の組織にして市民がコンタクトしやすい環境をつくる。

##### ●市民の役割

- 「四街道みんな地域づくりセンター」を積極的に利用する。